

相互貸借サービスや図書館について、お話しを伺いました。



利用者
千葉 順子さん
(小牛田町在住)

Q1 図書館は普段から利用していらっしゃいますか？
A1 週に一度くらい、家族で利用しています。
Q2 今回相互貸借のサービスを利用していかがでしたか？
A2 小牛田町図書館になかったのでダメかと思ったところ、草刈さんに県図書館にあることを調べてもらい、それをこの小牛田町図書館で借りることができるとお聞きして驚きました。私が考えていたよりも早く届いたと思いました。
 今回は県図書館の資料でしたが、小牛田町図書館と同じ利用期間で借りることができるのもよかったですと思います。本だけでなく、紙芝居・ビデオなども利用できますし、もっと活用したいなと感じました。

Q3 図書館を利用して感じることなどありますか？
A3 今はインターネットで自分で資料検索ができるようになっていたり大変便利ですが、やはりまだまだコンピュータに不慣れな方もいますし、環境が整っていないと利用できないことですので……。そういった意味で図書館は、知りたい情報をもっていない人の手助けができる場所だと思うんです。今回のように、図書館の職員さんに相談してみてもわかることも多くて、やっぱり最後は機械ではなく人間だなあと、人を介することの大切さを感じたりします。

Q1 相互貸借サービス利用上の注意点について

A1 宮城県図書館は、県内すべての方々方が図書館のサービスを楽しめるよう市町立図書館に対して支援を行っています。小牛田町図書館の例のように、身近な市町立図書館を通じて県図書館の資料を利用いただけることもそのひとつです。
 資料の所蔵状況やその時の貸出状況によっては、県内の他市町立図書館から資料を借り受けする場合もあり、これもそれぞれの図書館間でさかに行われています。この場合、資料の返却も貸出を受けた市町立図書館にさせていただく形になります。

貸出された資料は、一部を除いて窓口となった図書館の貸出条件（貸出期間・冊数）で借りられます。お探しの資料が県内の図書館にない場合には、県外の図書館から借りることもできます（送料を負担していただく場合もあります）。

Q2 図書館について

A2 宮城県図書館では、図書館の設置や利用促進の気運を醸成することを目的として図書館振興講演会を県内各地で開催するなど、県内すべての市町村に図書館が設置され、さらにネットワークが広がることによってたくさんの方に利用されることを目指しています。身近な図書館を通じてさまざまな機能を理解していただき、図書館の魅力をより深く知ってもらえればすばらしいことだと思います。



宮城県図書館職員
佐尾 博基 司書

Q1 相互貸借サービスについて

A1 図書館といっても、資料数はそれぞれの図書館によって限られています。以前、捕鯨について勉強している利用者がいました。最初は小牛田町図書館の資料で調べていましたが、そのうち県図書館の資料を、最終的には県外の図書館からも相互貸借を利用して資料を借りていました。自分に必要な情報であるひとつの種がだんだん大きくなっていき、相互貸借のサービスを利用して育っていった例だと思えます。

それから、以前、小牛田町内の小学校5年生のクラスで俳句の文集を作った時に、歳時記の本が本館の資料だけでは数が足りなくて相互貸借を利用して必要数を揃えました。このサービスの利用のしかたは様々ですが、目的の資料を手にとられた利用者の笑顔から「頼りにされている」とうれしく感じます。

Q2 図書館について

A2 私がちょっと感じるのですが……。小牛田町図書館は小牛田町民だけでなく、図書館がない近隣の町村の方も利用しています。相互貸借サービスを紹介する時、町内の方は他の図書館から資料を借りるということをご隠すに、いつもの利用と同じく当たり前のごとして申し込まれます。しかし、町外の方には恐縮したり遠慮する方が多いと感じます。その違いは、図書館というものが生活に密着しているかどうかではないでしょうか。図書館の存在に慣れていないのだと思うのです。

どんな時に「図書館に行こう」と思いつきますか？冠婚葬祭のあいさつを調べたり、お子さんとおはなし会に参加したり、生活に密着していれば、とても親しい存在となります。

小牛田町図書館を例にすれば、おはなし会は週2回ありますが、終了後は情報交換の場に早変わりです。館内には将棋盤をおいてありますが、大人と子どもが対戦していたりして世代を超えた交流の場になっています。近くに図書館がある環境をつくり、本を介してのコミュニケーションができると、住民にとって図書館が地域の情報広場になれるのではないのでしょうか。これからも求められ、頼られ、親しまれる生活の中で息づいていく図書館でありたいと思います。



小牛田町図書館職員
草刈 明美 司書

図書館 a r o u n d t h e みやぎ

◆シリーズ第13回 多賀城市立図書館 主幹 尾形 陽子

昭和53年6月1日、多賀城市立図書館は、宮城県内では一番最後の11番目の市立図書館として開館しました。同年7月には、移動図書館「さざんか号」が、本館から1kmを超える地域の巡回を開始、翌昭和54年には西部の山王地区公民館内に山王分室が、昭和55年には東部の大代地区公民館内に大代分室が開館し、多賀城市全域のサービス網が完成し、現在に至っております。

その記念すべき開館の年、10月27日の河北新報に『図書館元年の秋—多賀城市立図書館の意味するもの』という記事が掲載されました。それは、当時仙台市民図書館館内奉仕係長の黒田一之氏が、昭和40年代先進的な活動をした日野市立図書館の成功が、隣接する地域へ広がったものの、どういわけか「白河の関」をなかなか越えることができなかったのが、「……いまようやく遅い春が来て多賀城市に芽吹いたということなのだろう……」と多賀城市立図書館の開館がまさに東北の図書館元年であるという熱い期待を込めて書かれた

ものでした。

それから年月を重ね、一昨年開館25周年を迎えました。建物は所々老朽化し、近年建設された図書館のように最新の設備を備えてはおりませんが、開館当時『本当の意味の図書館』と称された誇りを忘れずに、今もよりよい図書館を目指し、日々進化し続けております。

多賀城市立図書館



▼データ

- 蔵書冊数：176,716冊（平成16年3月31日現在）
- 貸出冊数：345,025冊（平成15年度実績）
- 開館時間：（本館）火曜日～土曜日 午前9時～午後5時
日曜日 午前10時～午後4時
（分室）火曜日～土曜日 午前11時～午後5時
日曜日 午前11時～午後4時
- 休館日：月曜日
祝日（月曜日が祝日のときはその翌日）
毎月末日（月曜日のときはその前日）
年末年始（12月28日～1月4日）
特別整理期間
- 交通案内：JR仙石線・多賀城駅から徒歩15分

住所：〒985-0872 多賀城市伝上山1-1-6
 TEL：022-367-1730
 FAX：022-367-1736
 ホームページ：http://www1.bstream.jp/tagajo-lib/
 メールアドレス：tagajo-lib@zeus.bstream.jp